

第53回「市民の皆さんとランチで対話」概要

団 体 名	後藤千春さん外2名
開 催 日 時	平成22年12月24日（金） 正午～午後1時10分
開 催 場 所	市長応接室
出 席 者	後藤千春さん、淡路敏明さん、佐々木昇さん
案 件	<ul style="list-style-type: none"> ①五能線スライド&トークショー要約版紹介（12月11日・畠町新拠点） ②能代からみた白神・白神からみた能代 ③JR戦略から学ぶ能代の観光振興 ④エリアをつなぐ五能線と能代まちなか観光の一提案 ⑤意見交換：実現に繋がる施策や方策について
会議の概要	<p>市長との対話内容</p> <p>①五能線スライド&トークショー要約版紹介（12月11日・畠町新拠点）</p> <p>後藤さん：五能線スライド&トークショーでは、東京者からみた能代の市街地、五能線沿線風景、最果ての寂寥感、能代や八峰に残る日本の原風景、ローカル線慕情等を紹介した。関東などの仲間からは「五能線は良いところだが遠い。せっかく行くなら北東北では十和田、秋田なら角館というイメージ」と言われる。また、最近はオンシーズンはリゾートしらかみに乗れないので、ツアーバスを部分的に利用しながら五能線普通列車に乗る団体も増えている。能代駅で途中下車し、能代市内で滞在してもらえるようになってもらいたい。「レトロ」「昭和」「木都」で誘客できていると思っている。</p> <p>②能代からみた白神・白神からみた能代</p> <p>佐々木さん：遺産登録地のみ白神山地という誤解がエージェントやマスコミにも最近多い。能代と白神をつなぐものは「水」。何気なく使っている「水」の出どころが白神だということを子どもの頃から学んでほしいと思っている。白神の山に人は増えたが、能代の街に観光客は増えていない。風の松原や街なかでのノルディックウォーキングにより観光客を増やしていきたい。健康づくりにも役立つ。観光振興課、観光協会、まちづくり合同会社の連携を深めて盛り上がりを作してほしい。</p> <p>③JR戦略から学ぶ能代の観光振興</p> <p>淡路さん：能代山本スポーツリゾート構想ができた頃からJRの戦略を見てきた。青森新幹線開通により、観光客の流れが変わった。JRが発行している「五能線の旅」でも起点駅が秋田から青森が変わった。広域単位、大きな地図を見て考えないと能代への誘客はむずかしい。関東から青森新幹線、五能線で十二湖までは観光客が来るが、そこから能代まで引っ張ってこなければならぬ。十二湖まで来た観光客に能代の良いものを自信を持って紹介できればと思う。商業的に能代の魅力を発信してほしい。能代駅で降りた観光客に提供できる観光メニューの構築が急務。宿泊、飲食、交通等の異業種で再度、能代の観光を考えて欲しい。</p>

④エリアをつなぐ五能線と能代まちなか観光の一提案

後藤さん：白神山地だけでは観光客を呼べなくなってきた。能代に行けばあれがある、あれが見れる、あれができるということを再構築する必要がある。街なかの魅力発信も。例えば冬だと、まち灯り。主催者との雑談で、イベント時だけでなく、長く飾れたら良いという話もしてみた。街の中から盛りあげを。結局は誰がやるのかになる。行政がやれとは言えないし、商工会議所なのか、市民団体なのか。また、能代市だけなのか地域振興局にも協力を求めるべきなのか。五能線をテーマにしてきたが、昭和レトロや街なかイベントを考えたとき、二ツ井の街なかも魅力的。「街なかそぞろ歩き」も良いと思っている。

⑤意見交換：実現に繋がる施策や方策について

市長：観光協会があつて無い状況。組織の作り直しを検討中。五能線は人気ローカル線なのでうまく利用したい。青森から五能線で能代に来てもらうには、我々が自慢できるものを持たないといけない。能代の一番を市民が共有しないといけない。例えば東京の人に、日本海の夕日を一番きれいに見れるスポットはここで、この時期だったら何時ころが見ごろといった情報を提供できるようにしたい。能代の一番を定めることで、観光客に能代を堪能してもらわないといけない。観光協会が駅の中にあつて観光案内するくらいにならないと。また、能代と言えばやはり「木」。能代に行ったら全部「木」だったと言われるくらいこだわりを持つ。例えば金勇では組子や桶樽や春慶も全部見えるなど。ただ、残念なのは技術開発センターで開発した木の製品を商品化する業者がないこと。

淡路さん：私も木だと思う。街には木の歴史が残っている。

佐々木さん：おなごりフェスティバルの時に県南と秋田市のお客さんが遊びに来た。駅前で豚なんこつを味わったが非常に気に入ってもらった。豚なんこつを作る体験も喜んでもらえた。食べるだけでなく作ることも楽しい観光メニューになる。

市長：商売、観光のネタはあると思うので具体的に拾っていきたい。組子のコースターづくりも武田木工さんのおかげでできた。

後藤さん：木高研があり、研究者も集まっている。街じゅうに木材建築がある。それと役七タも資源の一つ。

市長：五所川原の立佞武多と役七タを五能線で結ぶなど、新しい祭りも検討しているところ。今回のおなごりに参加した「にいがた総おどり」は木の太鼓だった。おもしろいと思った。

後藤さん：青森新幹線開業にともない様々な企画ができています。来春の観光シーズンに向けて早急に取り組まなければならない。

市長：考える時期は過ぎた。みんなで努力して前に進みたいので協力をお願いしたい。

検討事項